

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ボランティアの受け入れなど行っているが、地域行事への参加など、地域の一員としての活動はまだ十分とは言えない。	法人の理念である「ご利用者様に心から満足いただける介護サービスを通じて地域が幸せになる企業を目指します」、更には、ケアビジョン「誓いの理念の共有」を掲げ、毎日の申し送り時に唱和しサービス提供場面を振り返る機会を持ちながら日々共有の実践に努めている。	法人の理念を掲げ唱和され支援に努めている。開設1年目で、地域との関わりもこれからの施設であるが、会社のビジュアルビジョンの基本動作を基に、「事業所独自の理念」を職員で作成し、利用者、地域での関係性を重視した理念の取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道普請への参加をしたが、地域の行事への参加など、日常的な交流はできていない。	開設1年目であるが、地域とは定期的を実施される道普請、地区のお祭り以外の交流はされていない状況が窺える。今年度、地域で開催される秋の文化祭には利用者の作品展示を計画するなど、徐々に地域との交流が増えている。	今後、保育園、学校、地域の行事には積極的に参加し、地域住民との交流を深めながら、地域の方が気楽に立ち寄ってもらえる事業所を目指すとともに、事業所ならではの役割や活動を積極的に担う意欲が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方の説明などを民生委員にしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様や普段のホームの取り組みなどを説明・報告し、意見をいただいている。	運営推進会議は地区の他グループホームと2ヶ月に1回、利用者、家族、包括支援センター、市担当者、ツクイ管理者参加で1ヶ月交代で開催している。事業所の報告他、意見、要望も伺い情報を提供している。今年度防災訓練の意見があり協力を得た取り組みに期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と日ごろから密に連絡を取り合っていないが、何かあったら連絡するようにしている。	地域や市町村主催の会議内容の案内はあるが、必要外の参加や連絡は取られていない状況である。運営推進会議を通し事業所での状況報告や事業所の考え方は理解してもらっているが、連携や協力関係に関しては、これからも連携を深めていこうとしている。	市担当者には運営推進会議のみならず、日頃から事業所の考えや実態を積極的に伝え、ケアサービスの取り組みなど共通理解を深めながら、何でも相談できる体制作りを努めて行くことが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について研修を通して理解を深め、身体拘束をしないケアを実施している。	職員全員で身体拘束防止について研修し、拘束はせず寄り添いながら見守っている。家族には契約時身体拘束に関して説明し理解を得ている。ひとり一人その日の気分や状態を確認し合い、安全面に配慮し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修し、事業所内で虐待を行わない、見過ごさないよう努めている。	管理者は「高齢者虐待防止法」について研修を実施し接遇についての共通理解に努めている。職員とは月1回の面談と2ヶ月毎に親睦会を開き、職員の疲労やストレスがケアに影響していないか、様子を見ながら声をかけ、虐待のない暮らしを支えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状特に研修の機会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、運営推進委員会への家族の参加の機会を設けている。	家族からは意見箱の利用はないが、運営推進会議や家族来所時に意見、要望を聞くようにしている。農業の家族が多いが、把握した内容によっては会社に伝え会議で話し合い、できるだけ運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の面談、職員会議を行っている。	管理者は施設職員の経験を活かし、話しやすい雰囲気づくりに努めている。毎月の職員会議には運営に関しての提案、検討等難しい部分もあるが、必要に応じて会社と連携し検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員は一人一人目標を立て、月に一度の面談で進捗状況を確認している。パートは契約更新時に勤務時間変更や条件などを改めて聞き取るほか、年に一度昇給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への派遣、外部研修の周知、講師を招いての研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に機会は設けていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの際にご本人の要望を聞き取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階でご家族の困っていること、希望をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	服薬の管理、入浴の実施など、どんなことを一番必要としているかをアセスメントして実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべてやるのではなく、入居者様が出来ることは自分でやらせようように支援している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合いながら、入居者様の事で協力を仰ぐところは仰いでいる。	家族には毎月のお便りを通して、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、利用者、家族の思いを大切にしながら話し合っている。また、外出、外泊、衣替えの時期の整理など、家族と共に本人を支えていく姿勢に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に支援していない。	在宅時から利用していた施設訪問や家族と外出、外泊、外食を楽しんだり、思い出話に耳を傾けながら、ひとり一人の生活習慣を大切にしている。	一部の方の支援はされている。今後、今迄の生活歴に沿った情報を得て、生活習慣や馴染みの関わりを大切に、地域との接点を継続しながら途切れのない関係支援の努めを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの移動や席替えなど、頻繁にはやらないが孤立する人がいないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者はいるが、ご家族、退去先の施設からも特に連絡はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメント、ケアプラン更新時のアセスメントなどで聞き取りを行い、ご家族にも意見を伺いながらケアプランを立てている。	事前訪問時に、本人、家族から詳細な聞き取りを行うことで、本人の希望や意向を把握し、アセスメントシートに記録している。また、そうした対応が困難な場合は、本人の近親者や友人、知人等から情報収集を行い、本人本位の対応に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで聞き取り調査し、その他ご本人との会話の中で出てきた情報を職員で共有するようにしている。	入居時のアセスメント情報を基に、本人の日常生活の様子や会話の中から得られた情報や関係機関等から得られた情報を全職員が共有し、問題点について十分検討を行い、適切なサービスの提供に取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の家事やハサミを使った作業、レクリエーションを通じて心身の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況が変わった際など、今までの介護計画の変更が必要になった際には家族や職員と話し合い、介護計画の変更をしている。	介護計画は日常的な関わりを通じて得られた情報を基に、職員間で十分検討を行い、本人や家族の意向も踏まえ作成している。また、本人の状態の変化などにより、計画の変更が必要な場合は、チームで経過記録等の振り返りを行い、本人の現状に即した計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記録しているほか、ユニットごとに引継ぎノートを作り、連絡事項を引き継いで職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は特に実践していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受診を希望する方にはそのようにしていただいている。	利用者の多くが、かかりつけ医での受診を希望していることから、意向に沿うよう受診支援をしている。受診時の付き添いは、家族にお願いしているが、急変時や家族の都合のつかない場合は、職員が付き添う対応をしている。また、受診結果は、医療機関から取得した情報を医師のコメントなどと共に記録した上、家族に連絡し職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤務している看護師に気づいたことなどは相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するご家族の意見を契約時に確認しているほか、看取りの希望がある際は協力医と連携してご家族の希望に沿うようにしている。	職員として看護師が配置されており、本人やご家族の希望に応じた看取り支援を協力病院との連携により行う方向で検討を進めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応については研修を行ったが、急変時の対応の実践については研修を行っていない。	毎月の職員会議の場における事故発生時の対応についてを議論や定期的な訓練により、徐々に実践力を身に付けて来ている。ただし、急変時の対応についてはマニュアル作成に留まっており、今後の課題となっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施したが、全職員が昼夜問わず避難できる方法を身につけてはいない。また、地域との協力体制を築けていない。	昼間を想定した訓練は実施されているが、夜間想定訓練が実施できていないため、今後の検討が必要である状況が窺える。また、近隣に民家が無いこともあり、地域住民と連携した訓練が出来ていないため、早急に地域や行政への働きかけにより、協力体制の構築が求められる。災害時の必需品は、相当程度整っているが、AED等の設置が期待される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修を行い、言葉がけや対応について学んでいる。	接遇マナーについての研修を行っており、利用者一人ひとりの人格尊重や自尊心への配慮のための気遣いや心配りについて学んでいる。馴れ合いによる言葉遣いの乱れなど、接遇面に改善も見られているとのことであり、研修による成果も窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ただこちらから提供するのではなく、外出やレクリエーションなど、本人の希望を聞いている。また、欲しいものなどの希望も聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋に戻ったり、食堂で誰かと話したり、本人の希望通りにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整え、女性についてはアクセサリや帽子など希望を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きは毎日お願いしている。食事の準備に関してはできる方をお願いしているが、毎日ではない。	食事の準備や後片付けでは、個人の状況に合わせて、食器拭きや野菜の皮むきなど、可能な範囲で手伝ってもらっている。また、庭園で採れた野菜をメニューに取り入れ、職員と共に調理に参加するなど、食事を楽しむための工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を個別で変えているほか、水分摂取が進まない方にはゼリーを提供する、甘い飲み物を提供するなど水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おむつ対応しているかたもいるが、日中は基本的に全員トイレで排泄している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者の様子から排泄を察して、円滑なトイレ誘導を行っている。日中はトイレでの排泄を基本としているが、夜間、トイレ誘導が困難な方についてはオムツを使用しているため、ポータブルトイレや排泄チェック表の活用などによる排泄支援についての検討が期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防は行えていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人ごとに曜日を決めているが、外出や入居拒否があった場合は無理に入浴せず、曜日をずらすなどしている。	個人の希望に合わせて、曜日ごとに入浴日が決められており、午前入浴で1日3名の入浴を可能としている。利用者の都合や体調等に合わせ変更も可能であり、無理のない入浴を心がけている。また、同性介護を希望される利用者もおられ、入浴の際にはプライバシーにも十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が見られたら部屋に誘導したり、		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が完全に理解しているとはいえない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除など、役割を持ってもらうようにしている。生活歴を考えた取り組みまではできていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日その日に外出支援はできていない。本人が行きたい場所へは家族と連携を取りながら外出できるよう支援している。	事業所の立地する周辺環境から、日常的な外出支援は行い難い状況はあるが、本人の希望により行う個別の外出においては、家族とも連携しながら、外泊を伴う外出にも対応している。また、行事計画における地域の名所・旧跡への外出の際に、事業所車両を利用した支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様本人が希望し、ご家族も理解している方は本人が金銭を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する入居者様はご家族への電話をかける機会を確保し、手紙も代行で出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の掲示物や植物など、季節ごとに変えている。	食堂を兼ねるリビングは、広々としたスペースを有している。自然な明るさが入り視界を遮るものもなく、利用者と職員が共同で作成した塗絵や工作なども展示されるなど、居心地の良い空間や雰囲気の醸成に工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の変更等を行うことがあるが、独りになれる空間については居室しかない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み品はライターや生もの、冷蔵庫以外は特に制限しておらず、自分の物を持ち込んで頂いている。	居室には、本人が使い慣れた家具や小物などが持ち込まれ、家族写真や本人作の手芸品なども飾られており、安心して過ごせる雰囲気作りの工夫がなされている。居室内の掃除は、本人が毎日行っており、行き届かない部分は、職員が補うことで清潔面の維持・確保が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に大きく名前を貼る、トイレに分かりやすく目印を付けるなど、混乱せず、一人でもそこまで行けるように工夫している。		